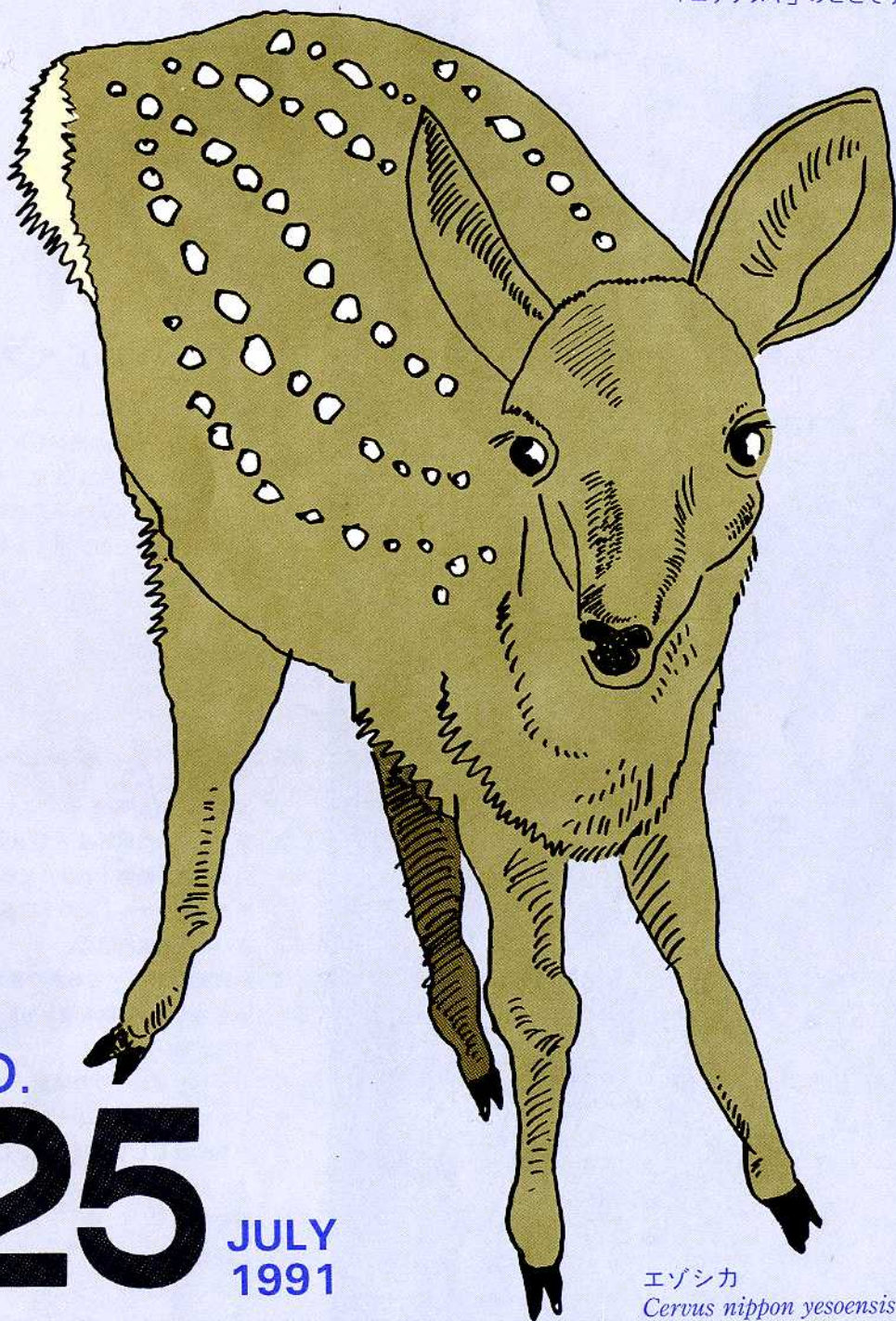




あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

モユク★カムイ

☆モユク・カムイとはアイヌ語で
「エゾタヌキ」のことです。



NO.

25

JULY
1991

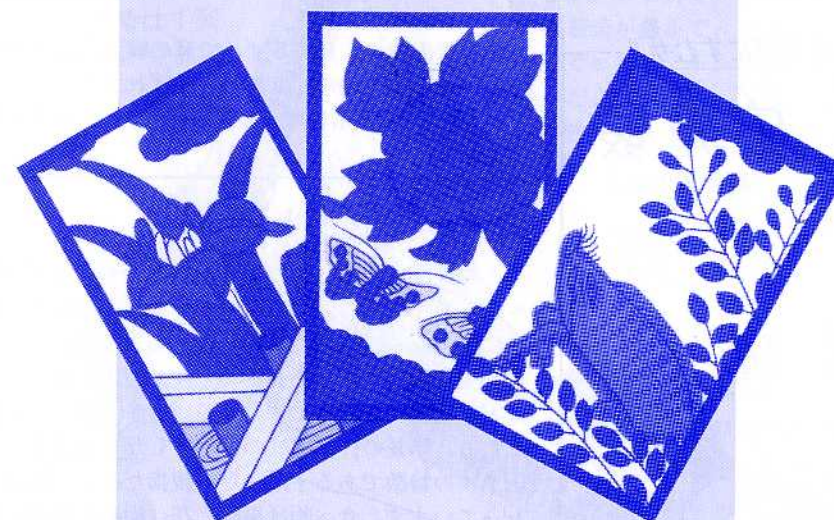
エゾシカ
Cervus nippon yesoensis

表紙のことば

森の木々の葉っぱがこんもりとしげる
そのすき間から、太陽の光がもれて、こ
もれ陽模様の絵を描いています。今年の
春生まれたエゾシカの赤ちゃんの背中にも、あっ
いつ描いたの、点々と薄い栗色
のこもれ陽模様。 (あ)

巻くじ

- 2 ほっとひとPhot -
- 3 新・どうぶつ解析考 - 花札の夏
- 4.5 シリーズ「動物ってなんだろう？」
第4回 「サル」その2 広鼻猿
- 6.7 夜の動物園案内地図
- 8 動物園放浪記 - ちあきの巻② -
Vet News (動物病院から)
- 9 飼育研究レポート
- シベリアヒョウの誕生 -
- 10 ゲンちゃんの追求コーナー
- 動物はおしりを拭かないの? -
クイズ
- 11 飼育日誌
お知らせ



新・どうぶつ解析考

花札の夏

5月 杜若に八つ橋

いずれ“あやめ”か“かきつばた”
水辺に涼しい花である。橋の袂に似合うのは
アズマニシキカランチュウか

6月 牡丹に蝶

夏の日差しに合うのは、鮮やか色の花と蝶
真っ赤な牡丹に、黄色いアゲハ
セセリにシジミにタテハにシロチョウ

7月 萩に猪

瓜坊が、母さんの後について、
萩の葉を食べに来るのか知らん。
北海道の野にもヤマハギは自生しているが、
残念ながらイノシシは本州止まり。

第4回 サル



旭山動物園には8種48頭のサルの仲間がいますが、鼻の穴の広がった“広鼻猿”は飼われていません。はやく会いたいな。



その2 アメリカ大陸にすむサル

広鼻猿 (新世界ザル)



南アメリカ大陸

中南米大陸に生息するサルで鼻の幅が広く、鼻の穴が外側を向いているところから、広鼻猿と呼ばれます。

このサルの仲間はすべて樹上生活者で、ヨザルを除いて昼行性です。

○マーモセット科

この仲間は絹のような美しい体毛を持つものが多く、“キヌザル”とも呼ばれる、小型のサルです。ジャングルの中をリスのように動き回り、小鳥のような声で鳴きます。

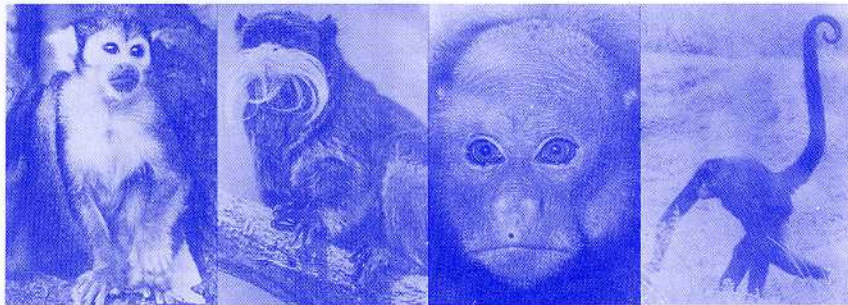
一夫一婦型の群れ社会をつくり、両親・子どもと合わせて10頭ほどの集団で暮らします。普通は1産2仔で、父親が育児を担当したり、年長の仔が弟妹の世話をしたりします。

サルの特徴である平爪は足の親指だけで、他はすべてカギ爪になっています。食べ物は果物、花、樹液や昆虫、トカゲなどいろいろなものを食べます。

○オマキザル科

マーモセット科よりずっとサルらしいサルの仲間、生活の仕方や体のつくりなど、あらゆる面で変化に富んでいるグループです。名前の通り尾を巻き付けてものをつかめるオマキザルやクモザル、真猿の中で唯一夜行性であるヨザル、はげ頭のウアカリ、ペインティングしたようなサキなど、実に多様なサルがこの仲間にはいます。

爪はすべて平爪で知能も高く、オマキザルはチンパンジー並みの能力を持っているといわれています。群れの形態も一夫一婦型から複雑群れ型まで、体の大きさも15kgのウーリークモザルから1kg未満のリスザルまでさまざまです。食べ物は果実、樹葉から昆虫、小動物まで何でも食べる広い食性をもっています。



●リスザル ●エンペラータマリン ●アカウアカリ ●クモザル

尾

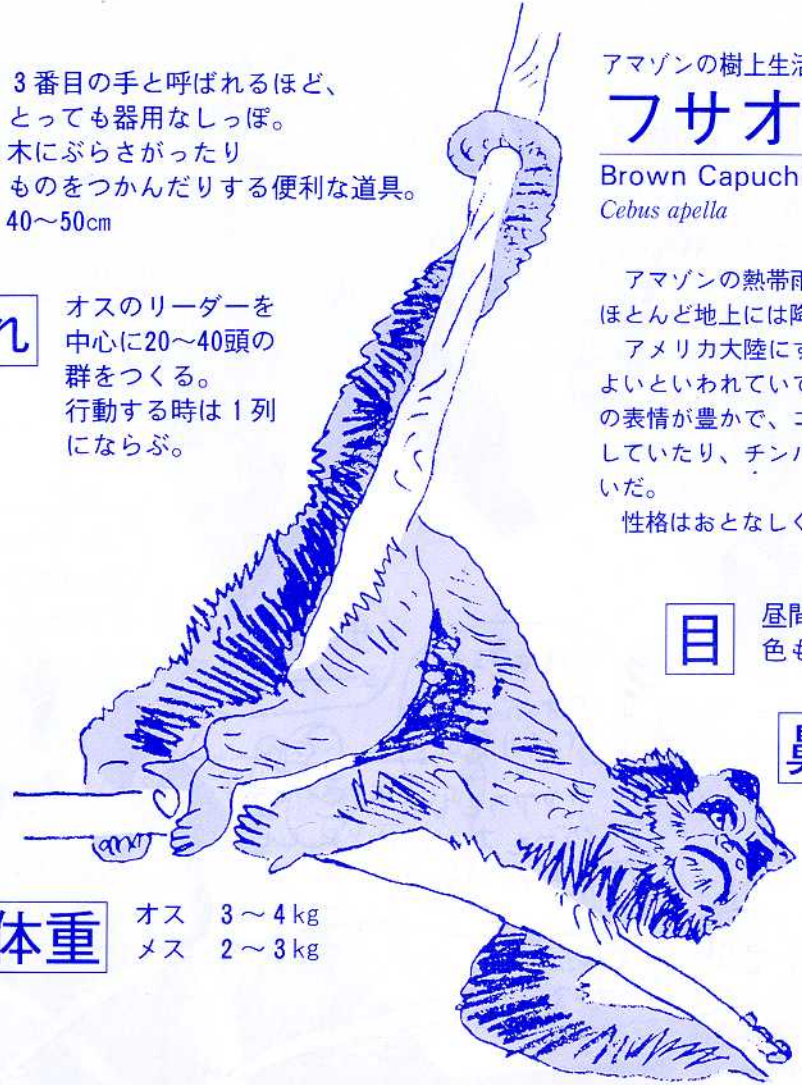
3番目の手と呼ばれるほど、とっても器用なしっぽ。木にぶらさがったりものをつかんだりする便利な道具。40~50cm

群れ

オスのリーダーを中心に20~40頭の群をつくる。行動する時は1列にならぶ。

体重

オス 3~4kg
メス 2~3kg



目

昼間活動するので色もわかる

鼻

鼻の穴は広くて、離れている

ニホンザル
(鼻の穴は狭く接近している)

食べ物

果実、木の葉、花、昆虫、クモ、卵など雑食性

アマゾンの樹上生活者

フサオマキザル

Brown Capuchin
Cebus apella

アマゾンの熱帯雨林(ジャングル)にすみ、ほとんど地上には降りてこない。

アメリカ大陸にすむサルの中では1番頭がよいといわれていて、道具をつかったり、顔の表情が豊かで、コミュニケーションが発達していたり、チンパンジーと比較されるくらいだ。

性格はおとなしく、よくなる。

●広鼻猿はどこからきたのか?

広鼻猿類は北米大陸で出現し発展した原猿類が、現在の中米付近に点在していた島づたいに、南米大陸に渡って進化、適応放散したという説が長い間信じられてきた。

ところが最近になって、古地理学者が地質時代の世界地図を作成できるようになり、広鼻猿類が分岐したと考えられる始新世後期の大陸の位置関係も明かとなった。それによると当時、南米大陸は大西洋上に孤立していて、北米大陸よりもアフリカ大陸近くに位置しており、潮流や風のうえからも広鼻猿類の祖先は、大西洋を横断するルートで渡ってきたと考えられるようになった。

また、つい最近アルゼンチンの漸新世後期の地層から発見された霊長類の歯がエジプトで発見された狭鼻猿類エジプトビテクスに酷似していることが分かった。

このようなことから広鼻猿類と狭鼻猿類は、共通の祖先であるアフリカの初期の真猿類から進化してきた、という説が有力となっている。

